

島の春

山田真砂年

江の島の緑ちんまり富士残雪
春潮のふくらんできて砕けけり
郵便は歩いて配る島の春
紅白の梅うちまじりさやぎをり
春眠し顔にうるさき枝の影
蜷の道他人ひととはうまく交はれず
白梅の陰の青さや貴種流離
軽く手を触れ春愁の自動ドア
考古学講座春泥渡りゆく
発掘の背をまるくして鳥曇
眩しさに古巢荒々しくありぬ
草餅のすこし乾びて子の戻る
霏々と降る春雪すべて海が呑む
老人がベンチにならび牡丹の芽
朝日射す神の磐座すみれ咲く
菜の花の子の丈を越え陽を返す
春落葉神社遷座の槌の音
人去ねば大島桜しづかな息
るねむりの虚子に春雷コロと鳴る

○氏告別式

斎場へ白梅の角曲がりけり

